

小山裕史先生のプロフィール

昭和31年11月14日生まれ。トレーニング研究施設「ワールド・ウイング」、トレーニング・アカデミー 各代表。現在、早稲田大学大学院修士課程において、初動負荷理論海外発表のための研究、英論作りに取り組んでいる。身体運動科学、神経生理
平成6年、初動負荷理論を発表。同理論は、平成7年、トレーニング科学研究会に承認される。日本体力医学会、日本体育学会会員。(財)日本スケート連盟、(財)日本陸上競技連盟、(財)日本水泳連盟、(財)日本柔道連盟のフィットネス・コーチなどを歴任し、多くのオリンピック選手、プロ・アマスポーツ選手の指導にあたる。



小山 裕史 先生

Yasushi Koyama

日韓のスポーツ交流に期待

市長 先日、韓国プロ野球の二球団の選手やコーチの方々が、市長表敬ということで私の所を先生と一緒に訪ねられましたね。韓国のスポーツ界でも有名だと聞いております。
小山先生 この冬は五球団の選手が私の施設に来られました。が、なかには鳥取にキャンプを張りたいという球団もありました。鳥取市や鳥取県の協力を仰げないだろうかとい

う声も上がっています。また、ゴルフとか、サッカー選手とか、スポーツ界全般にわたって来て下さっていますし、医学界の方でも、有名な韓国のお医者さんたちが勉強に来られ、『この初動負荷理論の施設を韓国にも作りたい』ということ、鳥取市との交流を深めていきたいという話もございませう。
市長 そうですか。韓国のスポーツ選手など、幅広い多くの方々が、この「初動負荷トレーニング」ということに関心を持ち、また、実践していただくことは、鳥取市の日韓交流にも、新しい一ページを開くことになると思えます。これからも日韓交流の面で「初動負荷トレーニング」を一つの柱としていきたいと思っております。そのためには、どういふことを考えていったらよいでしょうか。

小山先生 やはり、韓国のみなさんがトレーニングに来られた場合、野球場などいろいろな施設が必要ですが、なかなかうまく使えなくてみなさんにご迷惑を掛けています。市のサイドでもご協力いただきたいと思います。
また、選手のみなさんは鳥取空港に直行便が欲しいと言っておられました。選手が移動しますとマスクミ、ファンの方々が一緒に動きますので、互いの交流や経済的効果という面からも大きなエネルギーになっていくのではと思うのですが…。
市長 やはり、プロの選手がキャンプを張るためには、練習する施設が確保されなければなりませんし、交通の便の改善が必要ですね。いずれの面も、しっかり検討していきたいと思えます。そのほかに来られた関係者やファンのみなさんには、鳥取砂丘などの観光や温泉とか、楽しんでいただきたいと思います。また、選手のみなさんも含めて何か市民交流ができるようにするなど、スポーツを通じた日韓の交流を一つのテーマに何かしていきたいと思っております。

小山先生 今、思い出しましたが、十五年前に韓国からオリンピックの関係者が集まってくれました。『日韓の交流というものは、将来鳥取を中心にして始まるかも知れない』と言っておられました。
市長 これまでの交流の中でスポーツという部分は、実は非常に少なかったと思えます。今年は、アテネオリンピックもあり本当にスポーツの年といっていると思います。また、鳥取では六月に第八十八回日本陸上競技選手権大会が開かれることも予定されています。こうした場合、スポーツ交流という機運を盛り上げ、小山先生の「初動負荷トレーニング」を一つの大きなテーマとして、韓国との交



市役所を表敬訪問した韓国プロ野球選手（三星ライオンズ、ハンファイーグルス）のみなさんと小山先生